

# 平成 30 (2018)年度事業報告書

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人

歯科ネットワーク岡山から世界へ

## 1 平成30年度事業実施方針に沿えたかどうか（事業内容概要）

### 1. 事業実施の中長期方針

現地との連携強化の為に、以下の人または団体等とコンタクトを新規に取る、または継続して取り続け信頼関係を築くと同時に、日本人側も語学力向上・多文化共生の考え方の理解に努める。

- ストリートチルドレン友の会(FFSC)・Self-Reliance and Development Konkokyo Center (SRD)のスタッフ・教員
- 現地で有効な免許を保有する歯科医師、医療関係者
- 現地の子どもとコミュニケーションを取ることができるボランティア
- 病院、現地の歯科医院
- 歯学部のある大学
- 歯科医師組織（歯科医師会）
- 管轄省庁（ベトナム保健省、フィリピン保健省）

→概ね沿えている。ベトナム・フィリピンの管轄省庁とはコンタクトにつながる人のつながりを今後も重視する必要がある。

- ### 2. 予防啓発のはたらきかけをより多くの子ども達へ行う為に、現地ボランティアに当会のミッションとその根拠の理解を促す必要がある。その為には、活動時だけでなく、平常時から「ミッション達成のためのパートナー」として接することが求められると同時に、現地ボランティアにも、単なる手伝いではなく、メンバーとしての自覚を持つことが求められる。この為、第一に、既に常連となった現地ボランティアを海外会員として認証し、彼らを起点として継続的に会員を募る。次に、ベトナム・フィリピンに支部またはそれに準ずる機能を持つ組織の設立を検討・準備していき、最終的には現地での定例活動にあたっての準備は各支部が自律的に行うように促していく。

→沿えている。現地において、本会の活動のより一層の周知が必須である。

- ### 3. 10周年に向けて 活動内容の文書化

2010年の設立より、ベトナムでは14回、フィリピンでは7回、定例活動を実施してきた。2020年に迎える10周年を一つの契機と捉え、これまでの軌跡を辿り、発会の動機をあらためて顧みる過程でミッション達成へと向かうことができているか、本当に現地の子ども達の為になっているかを今一度我々自身に問いかけたい。その成果物としての文書は、定例活動への参加者募集や会員募集の際に活用できるだろう。

ヘルスプロモーションに関しても、これまで実施したプログラム概要を取りまとめ「事例集」とすることによって、プログラムを企画する際に大いに参考になるだろうことは容易に想像できる。また、この事例集に岡崎好秀氏の著作の主要素を加え「予防啓発のための子ども向け小冊子」を制作、現地施設へ配布することにより、10周年記念事業の成果を現地にも還元していきたい。

→10周年記念実行委員会を立ち上げ、議論を重ねている。

#### 4. 活動で得た情報のデータベース化と統計化

これまでの活動で得た検診・問診データは、非常に貴重な情報である。この情報をデータベース化・統計化する利点は重々承知ではあるが、担い手の不足あるいは多忙により為し得ていない。今後さらに説得力のある活動を展開していく為に、データベース化から始めていく。データベース化の過程において、入力依頼・入力作業・報酬の有無などの一連の所作を属人化せず仕組化することも念頭に置く。

→尽力いただける人物を見つけることができた。

#### 5. 定例活動ロジスティクスの整備

定例活動は、当会の活動の内最も労力を必要とするものである。しかしながら、ロジスティクスが整備されていないが為にムリ・ムダ・ムラが生じており、その結果、参加者が不便を感じる・個々の活動リーダーの負担が高じるなどの問題が起こっている。これまでの活動の中で自然と織り成されてきた慣習等も含めて整理し、役割分担を行うことによって問題は表出・潜在に依らず解消されていくだろう。

→定例理事会において議論を重ねつつ、改良・改善に努めている。

## 6. 在留外国人への予防歯科啓発

2017年度開始の「技能実習生対象歯科保健指導」で、技能実習生は口腔内に違和感を覚えつつも、重症化するまで来院を避ける傾向があることが分かった。この傾向は日本人であっても同様ではあるものの、収入額や日本語習熟度などの要因を鑑みると、当会にとっては技能実習生の方が自立支援対象者として妥当である。法務局統計によると、2017年末の在留外国人数は過去最多の約256万人、日本の総人口の約2%を占めており、今後も増加傾向にあるとみられる。2018年度も技能実習生に対する予防啓発は継続して続け、中長期的には、技能実習生のみならず留学生や外国人労働者など、歯科健診を受診する機会が少ないとみられる外国人に対しても予防歯科を啓発していくことを検討していきたい。

→継続中である。2018年度当初の計画外では、瀬戸内市に2018年4月開校した「学校法人せとうち 日本ITビジネスカレッジ」にて2018年12月に歯科衛生に関する公開講座を同学の依頼により開催、好評を博したため、今年4月より事務局長三木が日本語非常勤講師として着任した。講義の中で予防や心身の健康、病院で使用するフレーズなどを取り扱っている。

## 2 事業内容詳細

事業実績	事業内容
年・月・日	<p>下記6項目につき順を追って記します。</p> <p>①ネットワーク形成による連携強化：連携を継続している越国のFriends For Street Children Association (FFSC)、比国のSelf Reliance and Development Konkoko Center (SRD)、そして岡山大学歯学との連携に他に、連携可能な機関・団体との交流を探し、本会の活動を強化</p> <p>②現地のボランティア人材の育成：本会のミッション達成のためのパートナーとして認証等の方法で敬意を払い、現地での活動支部設立を準備</p> <p>③活動内容の文書・冊子化：本会の活動の紹介、現地活動の実施方法、そして子どもたちへの健康プロモーションの教材を纏め、活動に使用</p> <p>④活動成果のデータベース化と統計解析：検診データなどの活動成果を纏めて統計解析して、本会の活動を再評価し、活動報告会等で公表</p>

	<p>⑤越国・比国における歯科保健健康推進事業：現地へ出向いて、 検診，予防処置，健康プロモーション活動を実施</p> <p>⑥県内の在留外国人への予防歯科啓発：県内に増加している越国・比国からの技能実習生に対して，歯科保健指導を実施</p>
<p>2018年 6月 7/2 11/18 随時</p>	<p>① 2018年7月2日に歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）総会に参加・ポスター発表を行った。また、JICA中国「事業マネジメント研修（応用編）」受講。共に草の根事業提案の構想の下、担当者と面識を持ち他参加者と交流した。また、歯科衛生士養成校や瀬戸内市に新設の専門学校、ベトナムホーチミン市の175病院の職員に向けて活動紹介を行い、活動参加または協力を促した。また、2018年11月18日実施の「第8回活動報告会」にて金光教平和活動センター（KPAC）常任理事 杉本 健志 氏にご講演いただくなど、既存のステークホルダーとの交流もはかった。</p> <p><b>写真：2018年11月18日撮影 講演する杉本健志氏。</b></p>  <p>9月 ② 現地ボランティアの内、固定メンバーとのミーティングを初めて行った。本会の理念・活動方針に賛同いただくことができ、その結果として本会ホームページ内に「現地ボランティア紹介ページ」を作成した。</p> <p>URL：<a href="http://www.dnow.or.jp/officer/index.html">http://www.dnow.or.jp/officer/index.html</a> （ページ下部が当該箇所です。）</p> <p>また、2019年3月1日にボランティア認定証を授与し、今後の末永い協力をお願いした。（写真は下に掲載しました。）</p> <p>期間中 ③ 小冊子等にまとめるにあたり、現地における活動の流れについて現地</p>

全てと協議したところ、現地から改善の要望・アイデアが発出した。このアイデアは、2019年3月に試験的に適用され、問題なく運用できそうであるとの見通しが立った。ゆえに、冊子等の内容も若干手直しの必要があり、年度内の発行は難しい。

期間中 ④ 統計解析を行うにあたり、解析作業を行える人員を探す必要があった  
全て。人員は見つかったが、作業には適宜の時間を要する。作業時間の確保ができれば作業自体は煩雑だが容易ではあるということがわかった。引き続き時間の確保に注力していきたい。

右記 ⑤ 比国における活動実施：2019年1月18～19日

越国における活動実施：2019年3月1日

(両国における活動内容：ブラッシング指導含むヘルスプロモーション（予防啓発）、口腔内診査、フッ素・サホライド塗布、口腔内写真撮影、充填治療、抜歯治療）

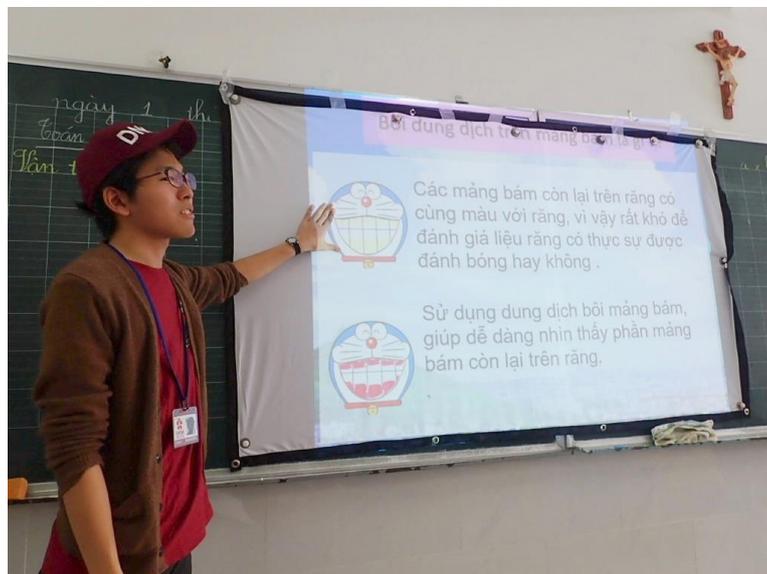
**写真：SRD-コンコウキョウセンターに通う女児宅の家庭訪問時に撮影。衛生環境や歯ブラシの有無・保管方法を尋ねる。**



**写真：2018年9月にミーティングに参加した現地ボランティアに「ボランティア認定証」を授与。（2019年3月1日撮影）**



写真：2018年3月1日 ヘルスプロモーションの様子



⑥ 2018年度より「歯科衛生講習」と呼称を変更した。瀬戸内市長船町協  
同組合日越交流センター研修棟にて月に1回の頻度で期間中に7回の講習を  
期間中 行った。対象はベトナム人とカンボジア人。

随時 写真：歯科衛生講習ブラッシング指導の様子（2018年11月8日）



報告は以上です。

2018年7月 JAICOH 学術集会ポスターセッション



## 特定非営利活動法人歯科ネットワーク岡山から世界へ Dentist Network from Okayama to the World (DNOW)

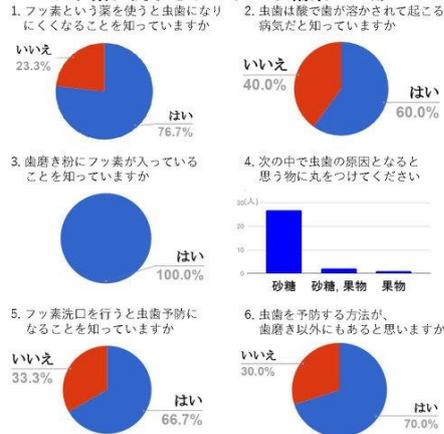
### Background | なぜ、ここに至ったのか？

ベトナムのNGO「ストリートチルドレン友の会」FFSC (FRIENDS FOR STREET CHILDREN) と2010年より協働し、ホーチミン市の児童保護施設で年2回の検診・治療及びヘルスプロモーションを行ってきている。継続的に訪問しているものの、訪問頻度の低さや社会的背景もあり、子ども達の虫歯を大きく減少させるには至っておらず、フッ素を使った予防に対する意識も高いとは言えない。



施設の子どもの平均的な口腔内

### フッ素に関するアンケート結果の一部



N=30; 無作為抽出した20~30代のベトナム人

### Purpose | 何を目的に行動するか？ 児童保護施設全体に対するフッ素洗口の導入

### Process | どのように行動したか？

アンケート → フッ素洗口プレゼンテーション → 模擬実施 (フッ素洗口体験)

保護者に対してアンケートをお願いした。

施設のソーシャルワーカーに対し、フッ素の有効性とフッ素洗口の手順について説明した。

施設に寄宿する子ども達に対し模擬実施を行った。

### Result | 結果、どうなったのか？

施設に通う子供の保護者の理解を得られず、  
施設に預けられた子どもたちのみ対象にフッ素洗口を行うことになった。

### Discussion & Further Work | 結果をどう考え、そしてこれからどうする？

日本のフロリデーションが0%なのにに対しベトナムのフロリデーションは5.3% (※)であることからわかるように、社会的にはフッ素洗口導入に対する抵抗は強くはないと思われる。しかし、保護者に配布したフッ素に関するアンケートの回収率が0%であったり、ソーシャルワーカーに対して行うフッ素に関する勉強会の開催を了解してもらうことに非常に苦労したように、最初から積極的な協力が得られたわけではない。フッ素洗口導入の成否を決定するのは、**ソーシャルワーカーがフッ素洗口の有用性をどれだけ理解しているかにかかっている**と思われる。まずは施設内でのフッ素洗口を軌道に乗せ、段階的に子ども達の家庭に広めていく。

今後もフッ素洗口が継続できているかどうかをソーシャルワーカーに頻繁に確認していきたい。

(※)CDC's Morbidity and Mortality Weekly Report (MMWR) April 02, 1999 / 48(12); 241-243